



[ホーム](#) > [県政情報](#) > [広報](#) > [県政eしんぶん\(報道資料\)](#) > 旧アール・ディエンジニアリング最終処分場周辺環境影響調査の結果について



公開日:2015年10月13日

## 旧アール・ディエンジニアリング最終処分場周辺環境影響調査の結果について

栗東市小野の旧アール・ディエンジニアリング最終処分場(以下「旧処分場」という。)について、平成27年7月6日および7月10日に実施しました旧処分場跡地の周辺環境影響調査(地下水等調査)の分析結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

### 1.調査日

平成27年7月6日

平成27年7月10日(経堂池)

### 2.調査実施者

滋賀県琵琶湖環境部最終処分場特別対策室

### 3.調査地点

調査地点は表1のとおり(位置については[調査地点図\(PDF:197KB\)](#)を参照)

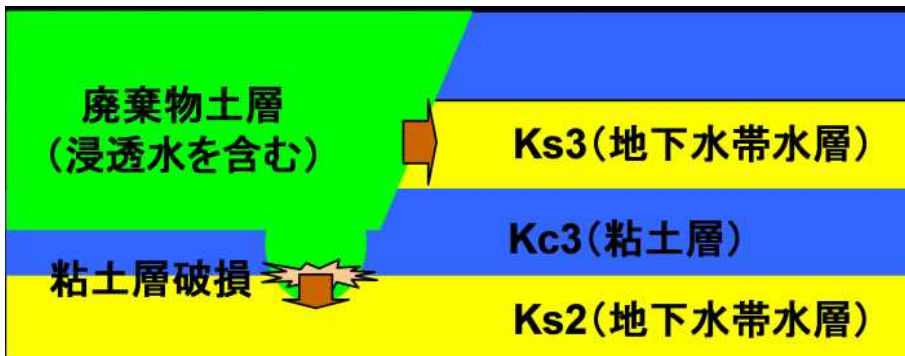
(表1)

種類		地点(井戸)番号
場内浸透水		H16-No.5、No.1揚水井戸 <sup>(※1)</sup>
Ks3層 <sup>(※2)</sup> 地下水	上流 <sup>(※3)</sup>	H24-8(2)
	周辺	H26-S2 <sup>(※4)</sup> 、H24-2(2)、H24-4(2)
	下流	K-1(Ks2層とKs3層が一体)
Ks2層 <sup>(※2)</sup> 地下水	上流 <sup>(※3)</sup>	H24-7、H24-6(2)
	周辺	H26-S2 <sup>(※4)</sup> 、No.1、No.3-1、H24-2、H24-4

	下流	K-1 (Ks2層とKs3層が一体)
	地下水等確認調査 (※5)	No.1-1、No.4-1、No.4-2、市No.3
経堂池		池中央部(水深約2m)

(※1)平成26年2月20日の調査より、分析に必要な水量が採取できなくなったA-3井戸に代えてその約10m南側の地点にある「No.1揚水井戸」において採取しています。

(※2)浸透水のKs3層地下水およびKs2層地下水への汚染移流拡散状況の概念図



【Ks3層地下水】側面で廃棄物土層と接していることにより、廃棄物土層の浸透水が地下水に移流拡散していると考えられます。

【Ks2層地下水】底面粘土層が破損している箇所では廃棄物土層と接していることにより、浸透水が地下水に移流拡散していると考えられます。

(※3) 上流は、ボーリング調査および電気伝導率(EC)の分析結果から、浸透水の影響はないと考えています。

(※4) 以前あった井戸は、平成26年度に実施しました鉛直遮水壁施工にともない一旦撤去しました。このため、施工後、「H26-S2」(Ks2層)および「H26-S2(2)」(Ks3層)としてほぼ同じ位置に再設置し、調査を再開しました。ただし、通常は井戸孔内の水量の4倍量をくみ上げ、孔内の停滞水を置換した後、必要量を採取していますが、H26-S2については0.75倍量程度しか置換できませんでしたので今回は参考値として取り扱います。

(※5) 過去の調査において有害物質等が環境基準を超過していた周辺地下水井戸について、経過を確認しています。平成25年度以降、有害物質は検出されていません。

## 4.調査項目

経堂池および市No.3以外：BOD等の一般項目5項目、有害物質等17項目

市No.3：pH、SS、ECおよび総水銀

経堂池：BOD等の一般項目14項目(うち農業用水基準項目7項目)および有害物質等8項目(うち農業用水基準項目1項目)

## 5.調査結果

別添資料[分析結果\(PDF:128KB\)](#)のとおり

各調査地点における安定型最終処分場の浸透水の基準(※6)および地下水の環境基準(※7)(以下「環境基準等」という。)の超過の状況は表2のとおりでした。

(表2) 環境基準等の超過の状況

地点の種類	全地点数	調査地点名	超過の状況			
			砒素	ほう素	塩化ビニルモノマー	ダイオキシン類
場内浸透水	2	H18-No.5 No.1揚水井戸	● 1	● 2	0	● 1
Ks3層地下水	上流	1	H24-8(2) (分析に必要な水量が確保できないため、分析不能。)			
	周辺	3	H26-S2(2) H24-2(2) H24-4(2) 地下水の環境基準を超過した地点はありませんでした。			
Ks2層地下水	上流	2	● 1	0	0	0
	周辺	5	● 2	● 3	0	0
Ks2+Ks3層最下流地下水	1	No.K-1	0	0	● 1	0
地下水等確認調査	4	No.1-1 No.4-1 No.4-2 No.3	地下水の環境基準を超過した地点はありませんでした。			

●: 環境基準超過

数字は環境基準超過地点数

表2に記載している有害物質(砒素、ほう素、塩化ビニルモノマーおよびダイオキシン類)以外の物質は今回調査において、環境基準等を超過していませんでした。

(※6) 一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令(昭和52年3月14日総理府・厚生省令第1号)

(※7) 「地下水の水質汚濁に係る環境基準について(平成9年3月13日環境庁告示第10号)」および「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質汚染を含む。)及び土壌汚染に係る環境基準(平成11年12月27日環境庁告示第68号)」

**表2の環境基準等を超過した地点での濃度の推移については、次のとおりでした。**

1) 砒素について

「No.1揚水井戸」では引きつぎ環境基準を超過しました。ただし、前回調査(H27年2月20日)の結果からは大きく低下しました(0.084→0.012mg/L)。この井戸の大きい濃度変動は降雨による地下水水位の上昇により、集水範囲が変化するためと推測しています。なお、この水は浸透水処理施設で浄化処理した後、下水道へ放流しています。

その他に環境基準を超過した井戸のうち、「H24-7」および「No.3-1」の濃度は、概ねこれまでの検出範囲内にあり、大きな変動はありませんでした。

また、旧処分場東側に再設置した井戸のうち、「H26-S2」(Ks2層)は、環境基準を超過しましたが、以前設置していた井戸(H24-S2)の濃度と同程度であり、大きな変動はありませんでした。

2) ほう素について

環境基準等を超過した5地点とも前回調査の結果と同程度の濃度でした。経年的に見て、浸透水の2地点については濃度が低下傾向を示しており、Ks2層周辺地下水の3地点についてはほぼ横ばいの状態です。

3) 塩化ビニルモノマーについて

「No.K-1」で環境基準を超過しました。これまでも濃度が環境基準前後で推移しており、大きな変動はありません。

4) ダイオキシン類について

「No.1揚水井戸」において、今回環境基準等を超過しました。同地点ではH26.7からH27.2までは環境基準等を下回っ

ていましたが、それ以前(H26. 2.

20)にも環境基準等を超過しており、濃度は今回と同程度(2.6pg-TEQ/L)でした。

同地点においては、ダイオキシン類だけでなく砒素の濃度変動も大きいことから今後も濃度変動については注視していきます。

## 経堂池調査について

pHおよびCOD以外の項目について環境基準および「水稻の生育のために望ましい指標」とされている農業用水基準(※8)以下でした。pHおよびCODが農業用水基準を超過しましたが、濃度は前回調査とほぼ同じでした。今後も調査結果を注視していきます。

(※8) 農業用水基準：農林水産省が学識経験者の意見も取り入れて、昭和45年3月に定めた基準で、法的拘束力はないが、水稻の生育のために望ましいかんがい用水の指標として利用されています。

### お問い合わせ

滋賀県琵琶湖環境部最終処分場特別対策室

電話番号：077-528-3670

ファックス番号：077-528-4849

メールアドレス：[df0001@pref.shiga.lg.jp](mailto:df0001@pref.shiga.lg.jp)

---

滋賀県庁：〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号

[県庁各課等のお問い合わせ先一覧](#)

Copyright © Shiga Prefecture. All rights reserved.